



# モリト株式会社

東証プライム 証券コード 9837

## 2022年11月期 通期決算概要

2023 年 1 月

MORITO

## CONTENTS

- 1 会社概要
- 2 中長期方針
- 3 第8次中期経営計画の一部変更
- 4 2022年11月期業績
- 5 2022年11月期事業の概況
- 6 2023年11月期通期業績予想
- 7 事業トピックス
- 8 株主還元策

## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

8

# 会社概要

# モリトグループの価値観

---

創業理念

**積極・堅実**

経営理念

**パーツでつなぐ、あなたとつながる、未来につなげる**

経営ビジョン

**存在価値を創造する、  
あたらしい「モリトグループ」の実現**



# 会社概要

## ● 1908 年創業

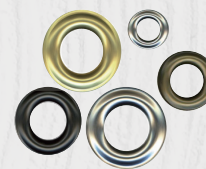
- ・大阪にてハトメ・ホックの仲買商として開業
- ・その後、マジックテープ® など服飾の付属品、自動車内装部品等の販売を中心に拡大

## ● 製造機能も併せ持つメーカー的機能を持つ商社

- ・企画・開発から製造に加え、卸・流通までを一貫して手掛ける専門商社
- ・世界に 17 拠点展開

## ● 3 つの事業を展開

- ・アパレル関連、プロダクト関連、輸送関連が事業の柱
- ・自社生産 30%、調達 70%ほどの構成



ハトメ



ホック



マジックテープ®

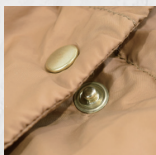
※ハトメ：靴・衣類などに紐を通す穴に取り付ける環状の金具



# 事業別詳細

## アパレル関連事業

<取扱い商品例>



ホック



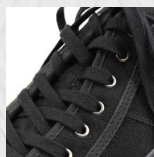
マジックテープ®



ボタン



テープ



ハトメ・靴紐



自社ブランド

<活用例>

カジュアルウェア・シューズ

スポーツウェア・シューズ

作業服・シューズ

メディカルウェア、ベビーウェア

フォーマルウェア・シューズ、バッグ

## プロダクト関連事業

<取扱い商品例>



マジックテープ®



樹脂パーツ



インソール



ストラップ



スケートボード・  
スノーボード・  
サーフィン



自社ブランド

<活用例>

インソール・シューケア商品

カメラ・PC ケース等映像機器関連商品、

サポーター、安全関連商品、教具・文具

スケートボード・サーフィン等

アクティブスポーツ関連商品

## 輸送関連事業

<取扱い商品例>



ホック



マジックテープ®



ネット



エンブレム



トランク  
フロアボード



ドアアーム  
レスト

<活用例>

自動車内装部品

鉄道・新幹線内装部品

航空機内装部品



# モリトの強み

---

## ● 3つの事業の柱で安定した業績

アパレル・プロダクト・輸送関連の3つの事業を柱に、オイルショックやリーマンショック、新型コロナウイルス感染拡大の影響などがあっても、赤字にならない安定した業績を維持。

## ● 多彩なアイテムで高シェアをマーク

各業界分野でシェア率の高い商品多数。  
金属ホックは日本で1位、世界でも1位、2位を争う。

## ● 世界各地に広がるグローバルネットワーク

自社拠点以外にも、協力工場や代理店が世界各地にあり、あらゆる顧客ニーズにできるだけ近くで対応。

## CONTENTS

1

2

3

4

5

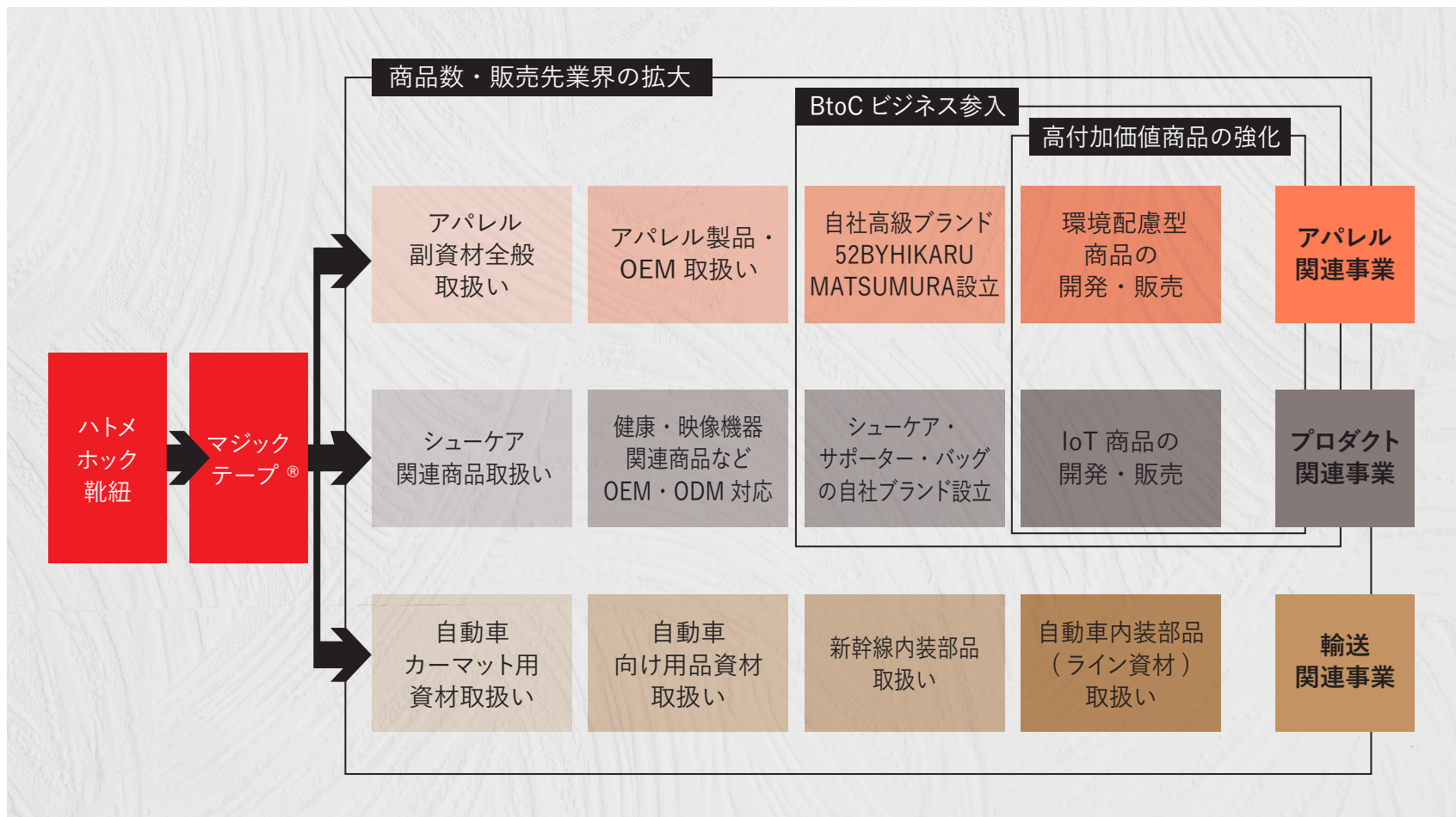
6

7

8

# 中長期方針

## グローバルニッチトップを目指した過去の実績





## グローバルニッチトップを目指した過去取り組み

### グローバル ネットワーク 構築

#### 販売・調達

香港、アメリカ、オランダ、台湾、中国（上海）、タイ、ミャンマー、メキシコ

#### 製造

中国（深セン）、アメリカ（ジョージア州）、ベトナム

#### M&A

スコーヴィル（アメリカ）、マテックス（日本）、マニューバーライン（日本）

### 収益力強化

- ・ グローバル品質保証体制の構築
- ・ 自社物流拠点の設立
- ・ 持株会社体制への移行
- ・ 事業会社モリトジャパンの分割

### 管理体制の強化

- ・ ダイバーシティ・働き方改革
- ・ キャリア採用等人事戦略



## 中長期方針 モリトが目指す姿

小さなパーツで世界を変え続ける、グローバルニッチトップ企業

第8次  
中期経営計画

### 事業戦略

- BtoC 市場への参入・強化
- 各市場のグローバルシェア No.1 へ
- 経営・製造・調達の現地化、新規拠点設立
- 製造会社への設備投資、生産効率化
- M&A の実施
- 高付加価値商品（安心・安全・健康・環境配慮の取り組み）

### コーポレート戦略

- IT 技術を活用した製造・業務・営業活動支援
- 運用・調達マネジメント強化による健全な財務体質の構築  
および資本効率の改善
- SDGs を意識した企業経営

2020 年～  
2021 年

### コロナ禍における 事業体制構築

- 経費の見直し
- 収益性の強化
- 不採算事業の見直し

## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

8

# 第8次中期経営計画の一部変更

## 第8次中期経営計画の一部変更（～2026年11月期）

### 背景

2019年6月 持株会社体制への移行

2022年6月 最大の事業会社モリトジャパンの分割

➡ 組織再編を完了

➡ 持株会社（モリト株式会社）が主導となり、  
グループ価値の最大化、サステナビリティ経営の体制整備、  
管理体制などの強化を推進



## 第8次中期経営計画の一部変更（～2026年11月期）

### 主な変更ポイント

#### ① サステナビリティ方針の策定

▶ サステナビリティサイトはこちら

#### ② 資本政策の変更

企業活動に必要な資金を長期的な視点で安定的かつ効率的に調達運用するため、偏りのない安定的な財務資本構成を構築する

##### <施策>

- (1) 中長期的な資本効率(ROE)の向上 → 効率的経営の実践
- (2) 業績連動性に安定性も付加した株主還元 → 適切な利益分配
- (3) 資産効率の改善 → BSの圧縮とCF創出および資金の積極投資
- (4) 資本構成の適正化 → 財務レバレッジなどの活用

## 第8次中期経営計画の一部変更（～2026年11月期）

### 主な変更ポイント

#### ③ 株主還元策の変更

投資案件および財務状況を勘案の上、下記の「利益配分に関する基本方針」のもと決定（2023年11月期より）

- ・ 安定的かつ継続的配当の実現
- ・ 親会社株主に帰属する連結当期純利益に対する連結配当性向50%以上
- ・ 連結自己資本配当率（DOE）目標4%

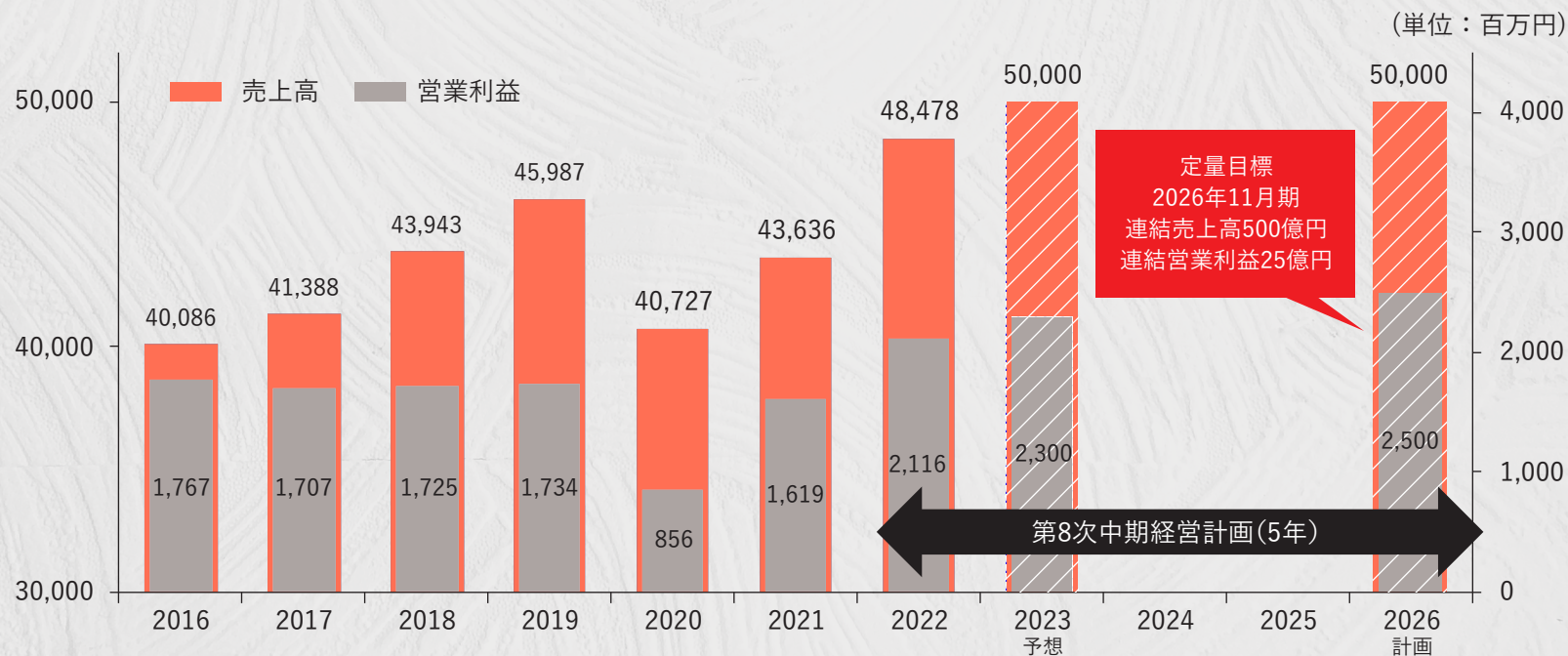
ただし、特別な損益等の特殊要因により税引き後の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度につきましてはその影響を考慮し配当額を決定いたします。



## 第8次中期経営計画の一部変更（～2026年11月期）

2022年度～2026年度で、売上高500億円、営業利益25億円を定量目標として定める。

※ 売上高・営業利益共に目標数値に早期達成した場合は、見直しを実施。





## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

8

# 2022年11月期 業績

4

## 2022年11月期 ハイライト

---

- 半導体不足による自動車メーカー減産、原材料の高騰、海外運送の遅れ、運送費の高騰の影響が継続
- メディカルウェア・作業服、スポーツ関連など、機能性に優れた付属品・製品が好調に推移
- 運送費などの経費見直しを継続
- 通期売上高・経常利益が、過去最高を達成

## 2022年11月期 通期業績サマリー

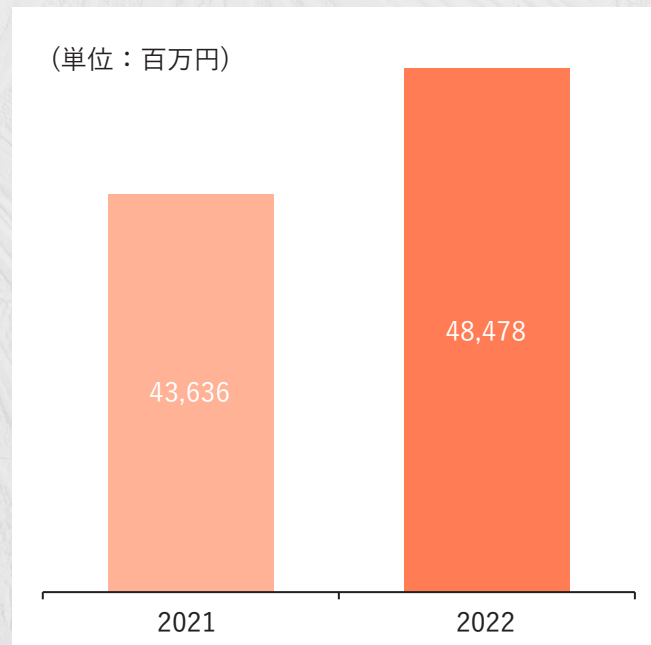
(単位：百万円)

|        | 前期     | 当期     | 増減     | 前期比    |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高    | 43,636 | 48,478 | +4,842 | +11.1% |
| 売上総利益  | 11,401 | 12,487 | +1,086 | +9.5%  |
| 売上総利益率 | 26.1%  | 25.8%  |        |        |
| 経費     | 9,781  | 10,370 | +589   | +6.0%  |
| 経費率    | 22.4%  | 21.4%  |        |        |
| 営業利益   | 1,619  | 2,116  | +497   | +30.7% |
| 営業利益率  | 3.7%   | 4.4%   |        |        |
| 経常利益   | 1,834  | 2,342  | +508   | +27.7% |
| 経常利益率  | 4.2%   | 4.8%   |        |        |
| 当期純利益  | 1,407  | 1,674  | +267   | +19.0% |
| 当期純利益率 | 3.2%   | 3.5%   |        |        |



## 2022年11月期 売上高

売上高：48,478 百万円 前年同期比：+4,842 百万円 (+11.1%)  
半導体不足により輸送関連事業は影響を受けつつも、国内外でアパレル関連事業を中心に伸長。通期売上高は過去最高を達成。



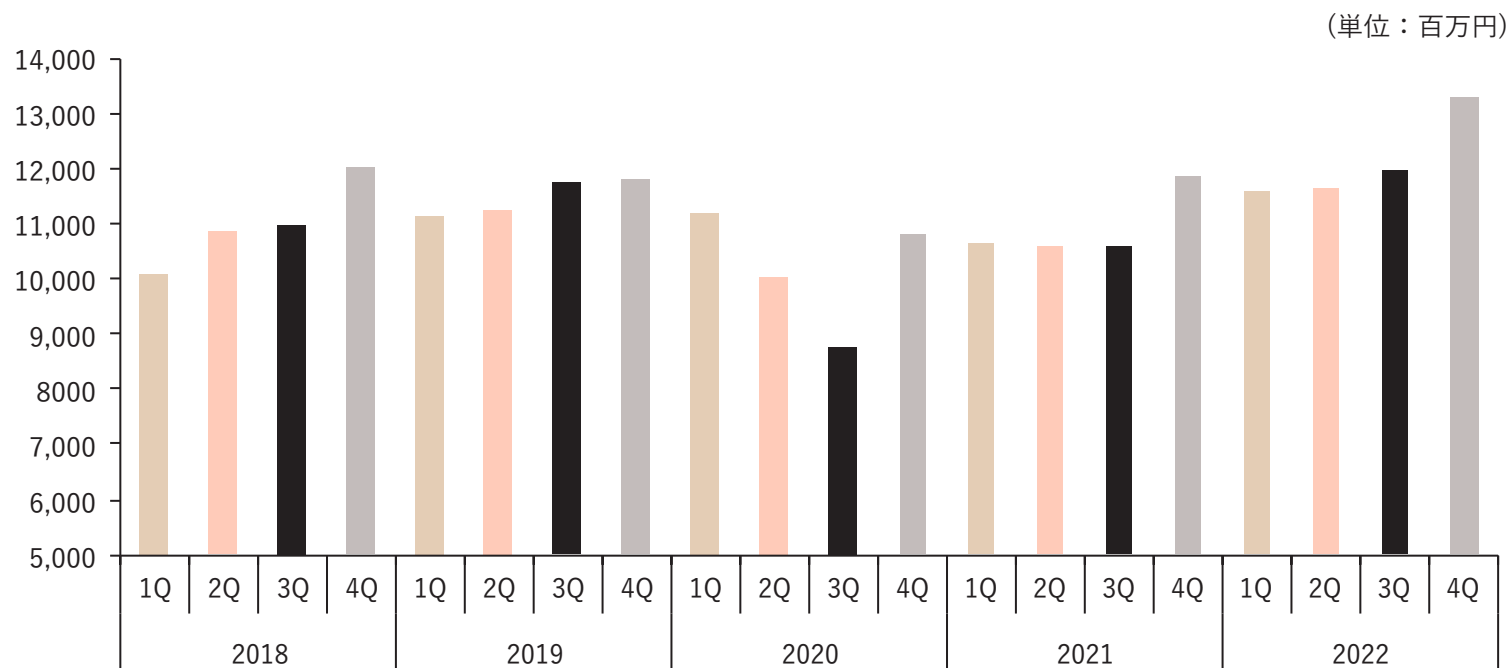
**日 本** 33,516 百万円  
前年同期比 +3,287 百万円 (+10.9%)

**アジア** 8,340 百万円  
前年同期比 +286 百万円 (+3.6%)

**欧 米** 6,621 百万円  
前年同期比 +1,268 百万円 (+23.7%)

## 2022年11月期 四半期別売上高の推移

ウィズコロナへの移行が進み、下期はアパレル・プロダクト関連事業全般で需要が回復。

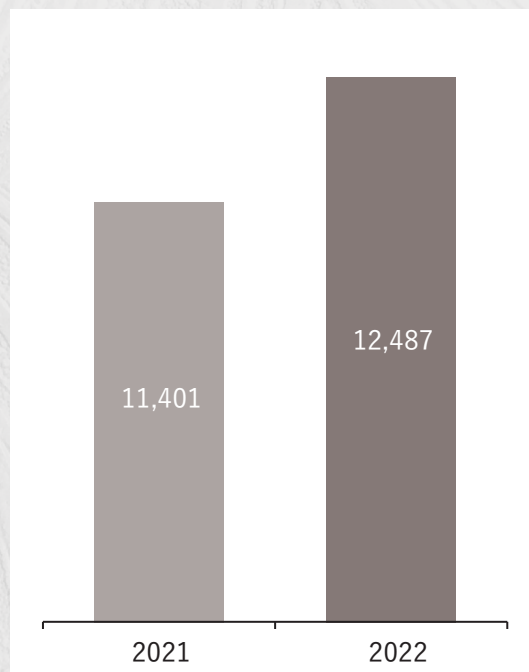


## 2022年11月期 売上総利益

売上総利益：12,487 百万円  
売上高増加により増加。

前年同期比：+1,086 百万円 (+9.5%)

(単位：百万円)

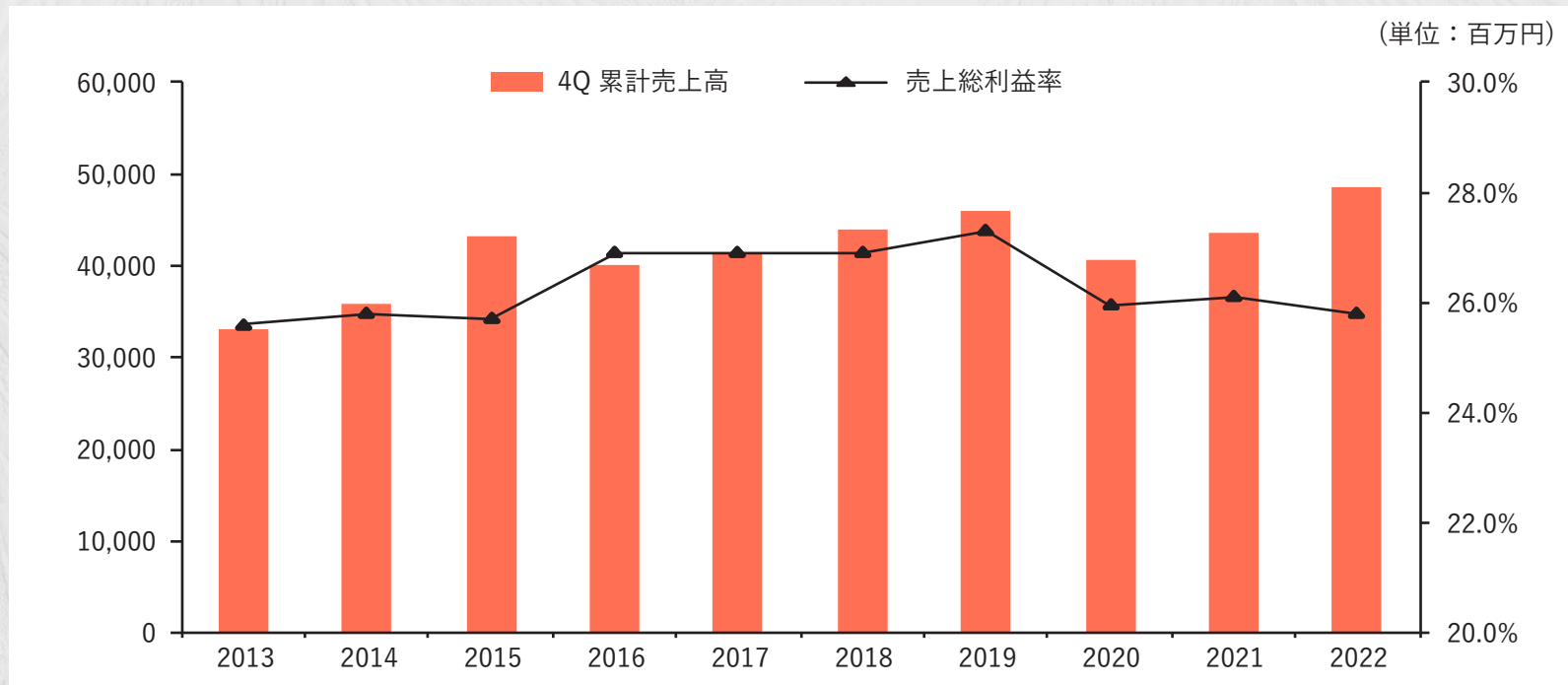


|        | 前 期    | 当 期    | 増 減    | 前期比    |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高    | 43,636 | 48,478 | +4,842 | +11.1% |
| 売上総利益  | 11,401 | 12,487 | +1,086 | +9.5%  |
| 売上総利益率 | 26.1%  | 25.8%  |        |        |
| 経 費    | 9,781  | 10,370 | +589   | +6.0%  |
| 営業利益   | 1,619  | 2,116  | +497   | +30.7% |
| 経常利益   | 1,834  | 2,342  | +508   | +27.7% |
| 当期純利益  | 1,407  | 1,674  | +267   | +19.0% |



## 2022年11月期 売上高・売上総利益率の推移

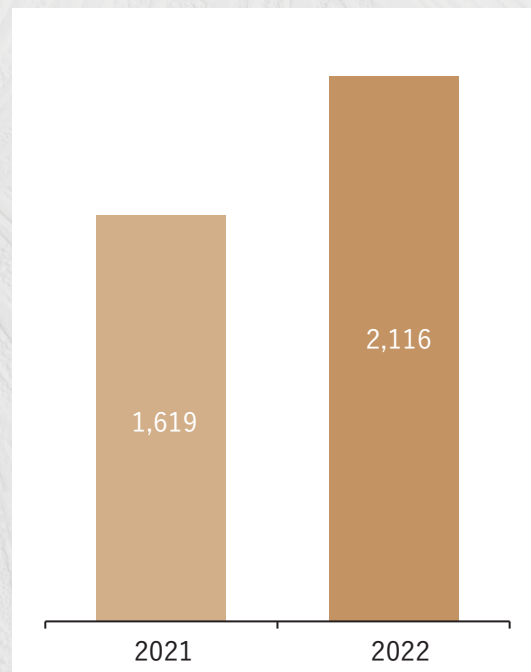
原材料価格の高騰、円安による仕入れ価格の増加の影響を受け、売上総利益率は昨年と同水準。



## 2022年11月期 営業利益

営業利益：2,116 百万円 前年同期比：+497 百万円（+30.7%）  
 売上総利益増加、経費率の改善。

（単位：百万円）



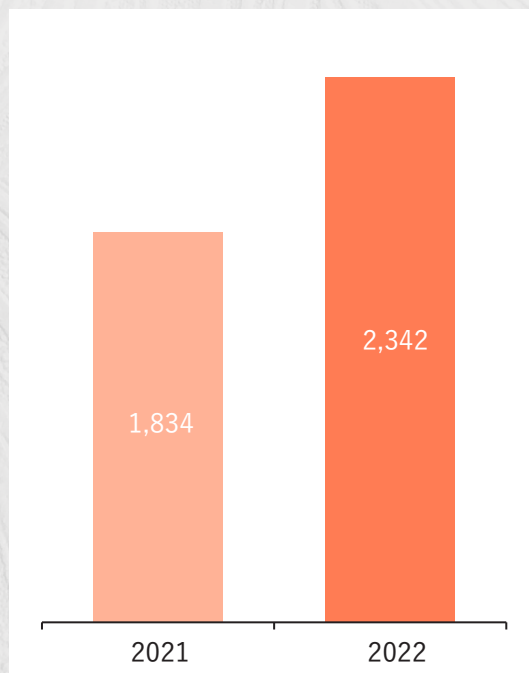
|        | 前 期    | 当 期    | 増 減    | 前期比    |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高    | 43,636 | 48,478 | +4,842 | +11.1% |
| 売上総利益  | 11,401 | 12,487 | +1,086 | +9.5%  |
| 売上総利益率 | 26.1%  | 25.8%  |        |        |
| 経 費    | 9,781  | 10,370 | +589   | +6.0%  |
| 経 費 率  | 22.4%  | 21.4%  |        |        |
| 営業利益   | 1,619  | 2,116  | +497   | +30.7% |
| 営業総利益率 | 3.7%   | 4.4%   |        |        |
| 経常利益   | 1,834  | 2,342  | +508   | +27.7% |
| 当期純利益  | 1,407  | 1,674  | +267   | +19.0% |

## 2022年11月期 経常利益

経常利益：2,342 百万円  
営業利益の増加。

前年同期比：+508 百万円（+27.7%）

（単位：百万円）



|        | 前 期    | 当 期    | 増 減    | 前期比    |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高    | 43,636 | 48,478 | +4,842 | +11.1% |
| 売上総利益  | 11,401 | 12,487 | +1,086 | +9.5%  |
| 経 費    | 9,781  | 10,370 | +589   | +6.0%  |
| 営業利益   | 1,619  | 2,116  | +497   | +30.7% |
| 営業利益率  | 3.7%   | 4.4%   |        |        |
| 経常利益   | 1,834  | 2,342  | +508   | +27.7% |
| 経常利益率  | 4.2%   | 4.8%   |        |        |
| 当期純利益  | 1,407  | 1,674  | +267   | +19.0% |
| 当期純利益率 | 3.2%   | 3.5%   |        |        |

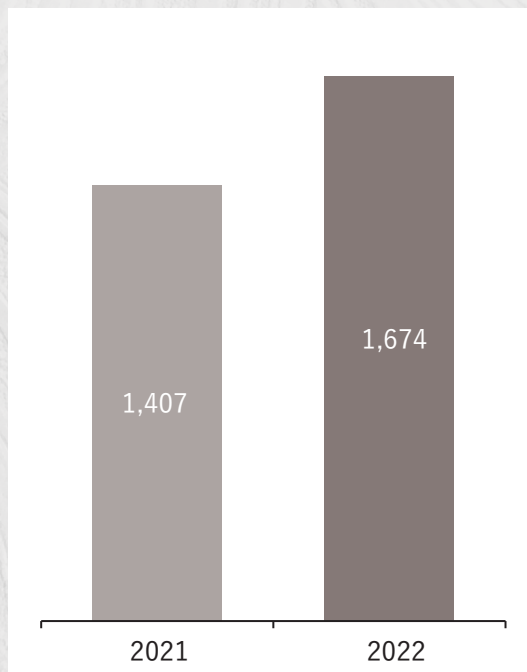


## 2022年11月期 当期純利益

当期純利益：1,674 百万円  
経常利益の増加。

前年同期比：+267 百万円（+19.0%）

（単位：百万円）



|        | 前 期    | 当 期    | 増 減    | 前期比    |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高    | 43,636 | 48,478 | +4,842 | +11.1% |
| 売上総利益  | 11,401 | 12,487 | +1,086 | +9.5%  |
| 経 費    | 9,781  | 10,370 | +589   | +6.0%  |
| 営業利益   | 1,619  | 2,116  | +497   | +30.7% |
| 経常利益   | 1,834  | 2,342  | +508   | +27.7% |
| 経常利益率  | 4.2%   | 4.8%   |        |        |
| 当期純利益  | 1,407  | 1,674  | +267   | +19.0% |
| 当期純利益率 | 3.2%   | 3.5%   |        |        |

## 2022年11月期 連結貸借対照表

|      | 2021 4Q | 2022 4Q            |
|------|---------|--------------------|
| 資産の部 |         |                    |
| 流動資産 | 26,957  | 30,481<br>(+3,524) |
| 固定資産 | 18,980  | 19,790<br>(+810)   |
| 資産合計 | 45,938  | 50,271<br>(+4,333) |

|                 | 2021 4Q | 2022 4Q            |
|-----------------|---------|--------------------|
| 負債の部            |         |                    |
| 流動負債            | 7,507   | 9,309<br>(+1,802)  |
| 固定負債            | 4,515   | 4,278<br>(▲ 237)   |
| 負債合計            | 12,023  | 13,587<br>(+1,564) |
| 純資産の部           |         |                    |
| 株主資本            | 31,477  | 31,860<br>(+383)   |
| その他の<br>包括利益累計額 | 2,381   | 4,768<br>(+2,387)  |
| 純資産合計           | 33,914  | 36,684<br>(+2,770) |
| 負債純資産合計         | 45,938  | 50,271<br>(+4,333) |

自己資本比率 72.9% (2021年4Q 73.7%)

## 2022年11月期 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

|                      | 2021 4Q | 2022 4Q |
|----------------------|---------|---------|
| 現金及び現金同等物期首残高        | 10,052  | 11,020  |
| 営業活動によるキャッシュフロー      | 2,644   | 850     |
| 投資活動によるキャッシュフロー      | ▲ 401   | ▲ 135   |
| 財務活動によるキャッシュフロー      | ▲ 1,380 | ▲ 1,916 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額     | 106     | 577     |
| 現金及び現金同等物の増減額        | 968     | ▲ 623   |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | -       | -       |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | -       | -       |
| 現金及び現金同等物期末残高        | 11,020  | 10,396  |



## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

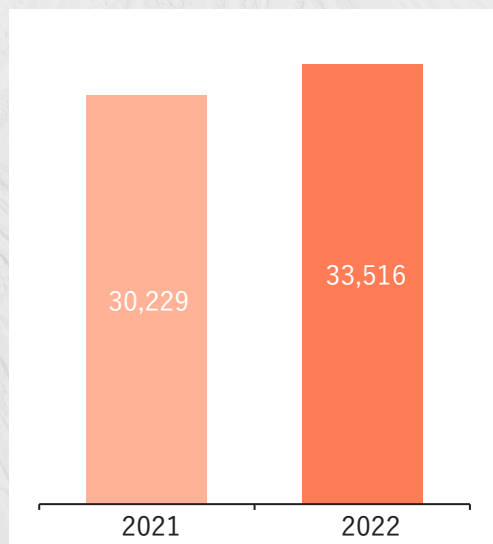
8

# 2022年11月期 事業の概況

## 2022年11月期 地域別売上高(地域別詳細)

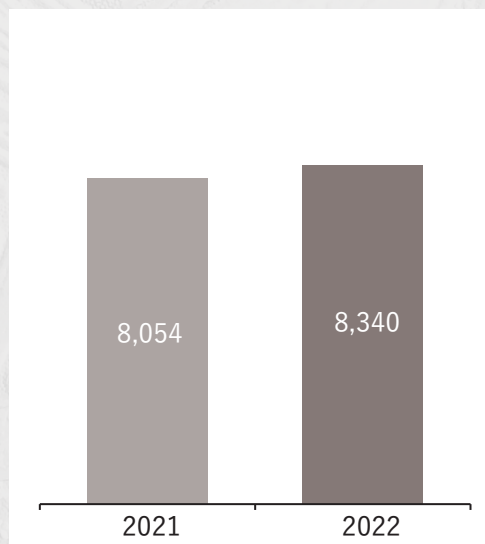
(単位：百万円)

### 日 本



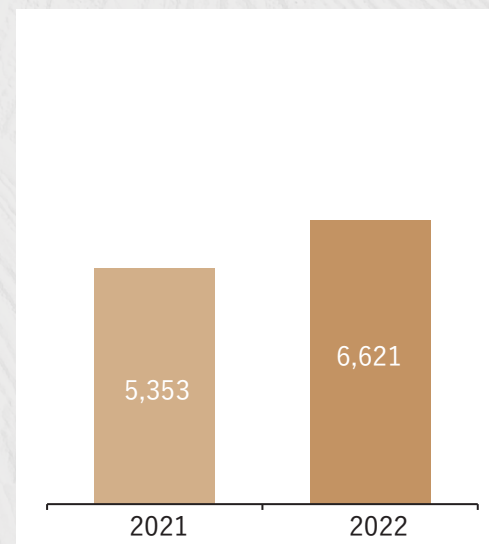
前年同期比 +3,287百万円  
(+10.9%) ↑

### アジア



前年同期比 +286百万円  
(+3.6%) ↑

### 欧 米



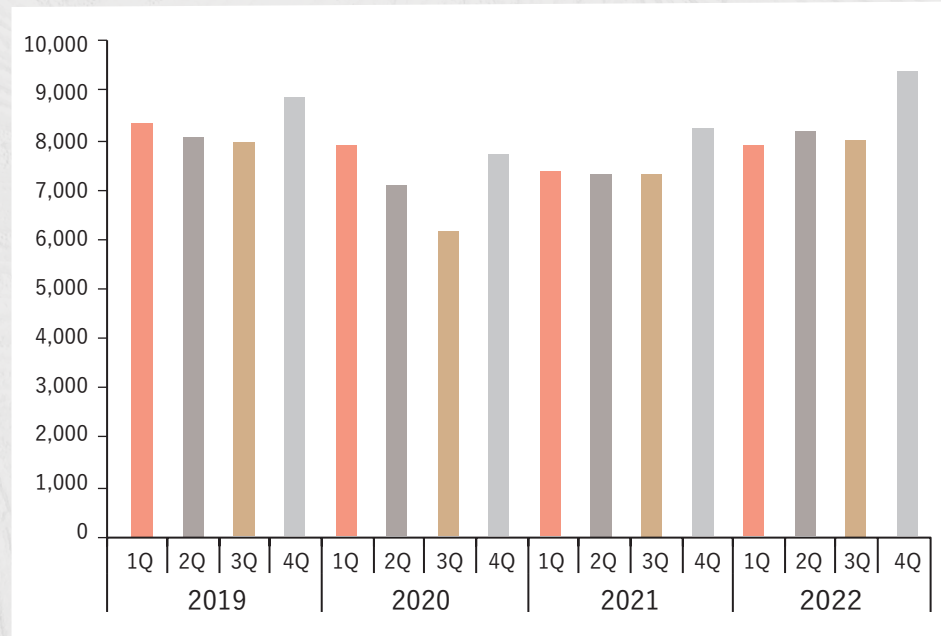
前年同期比 +1,268百万円  
(+23.7%) ↑

## 2022年11月期 地域別売上高(日本)

アパレル関連事業が堅調に推移。半導体不足の影響が継続している一方、輸送関連事業では日系自動車メーカーのマイナーチェンジモデルの内装部品が好調。

(単位：百万円)

- 欧米向けの作業服・メディカルウェア向け付属品が増加
- カジュアルウェア向け付属品が増加
- スポーツウェア・スポーツシューズ向け付属品が増加
- 医療機器関連商品が増加
- 均一価格小売店向け商品が増加
- 建築現場向け安全関連商品が増加
- スノーボード・サーフィン・アウトドア関連商品が増加
- 自動車内装部品が増加

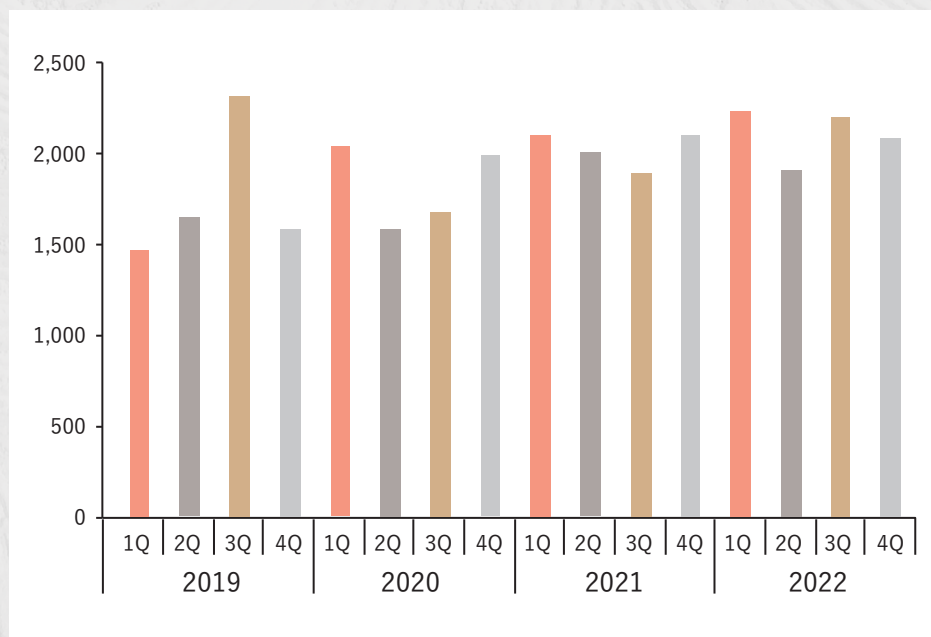


## 2022年11月期 地域別売上高（アジア）

中国・香港におけるアパレル関連事業が引き続き好調。  
輸送関連事業はメーカー工場間の生産移管に伴う調整により減少。

（単位：百万円）

- 中国での日系自動車メーカー向け  
自動車内装部品が減少
- 中国・香港での欧米向け作業服関連  
付属品が増加
- 中国・香港でのカジュアルウェア向け  
付属品が増加
- ベトナムでのスポーツシューズ向け  
付属品が増加



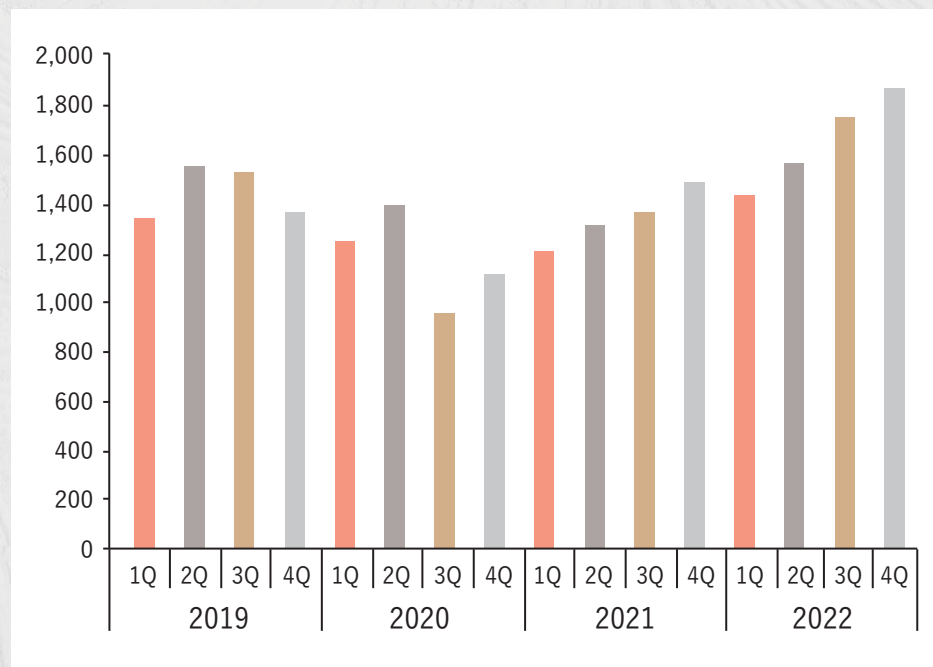


## 2022年11月期 地域別売上高（欧米）

作業服・カジュアルウェアなどを中心にアパレル関連事業が堅調に推移。  
輸送関連事業においては、半導体不足の影響が継続中。

（単位：百万円）

- 作業服向け付属品が増加
- カジュアルウェア向け付属品が増加
- 高級ダウンウェア向け付属品が増加
- 日系自動車メーカー向け自動車内装部品が減少



## 2022年11月期 地域別売上高（四半期別）

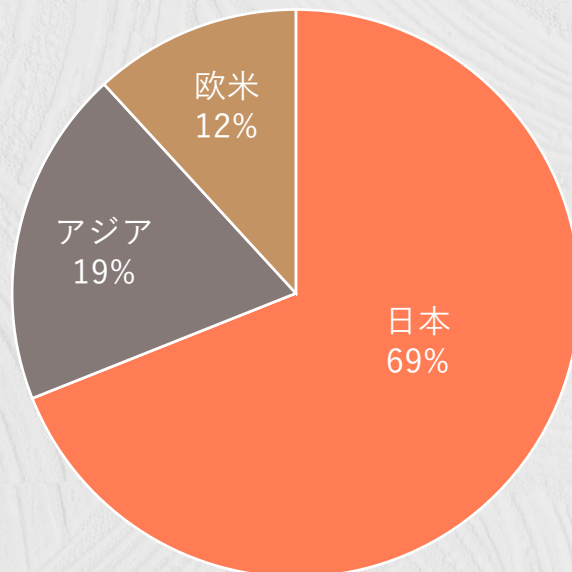
（単位：百万円）

| 2022年度 実績 |        |        |        |               |        |               |               |               |
|-----------|--------|--------|--------|---------------|--------|---------------|---------------|---------------|
|           | 1Q     | 2Q     | 3Q     | 4Q            | 通期     | 構成比           | 増減額           | 増減率           |
| 日本        | 7,912  | 8,196  | 8,031  | <b>9,377</b>  | 33,516 | <b>69.1%</b>  | <b>+3,287</b> | <b>+10.9%</b> |
| アジア       | 2,212  | 1,885  | 2,180  | <b>2,063</b>  | 8,340  | <b>17.2%</b>  | <b>+286</b>   | <b>+3.6%</b>  |
| 欧米        | 1,436  | 1,885  | 1,755  | <b>1,866</b>  | 6,621  | <b>13.7%</b>  | <b>+1,268</b> | <b>+23.7%</b> |
| 合計        | 11,561 | 11,646 | 11,965 | <b>13,306</b> | 48,478 | <b>100.0%</b> | <b>+4,842</b> | <b>+11.1%</b> |

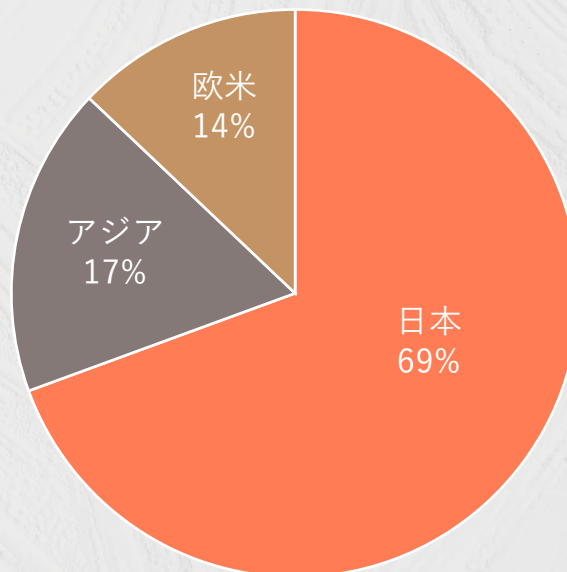
| 2021年度 実績 |        |        |        |        |        |        |        |        |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|           | 1Q     | 2Q     | 3Q     | 4Q     | 通期     | 構成比    | 増減額    | 増減率    |
| 日本        | 7,347  | 7,291  | 7,329  | 8,262  | 30,229 | 69.3%  | +1,419 | +4.9%  |
| アジア       | 2,083  | 1,996  | 1,884  | 2,091  | 8,054  | 18.5%  | +829   | +11.5% |
| 欧米        | 1,198  | 1,309  | 1,364  | 1,482  | 5,353  | 12.3%  | +662   | +14.1% |
| 合計        | 10,629 | 10,596 | 10,577 | 11,834 | 43,636 | 100.0% | +2,909 | +7.1%  |

## 2022年11月期 地域別 売上構成

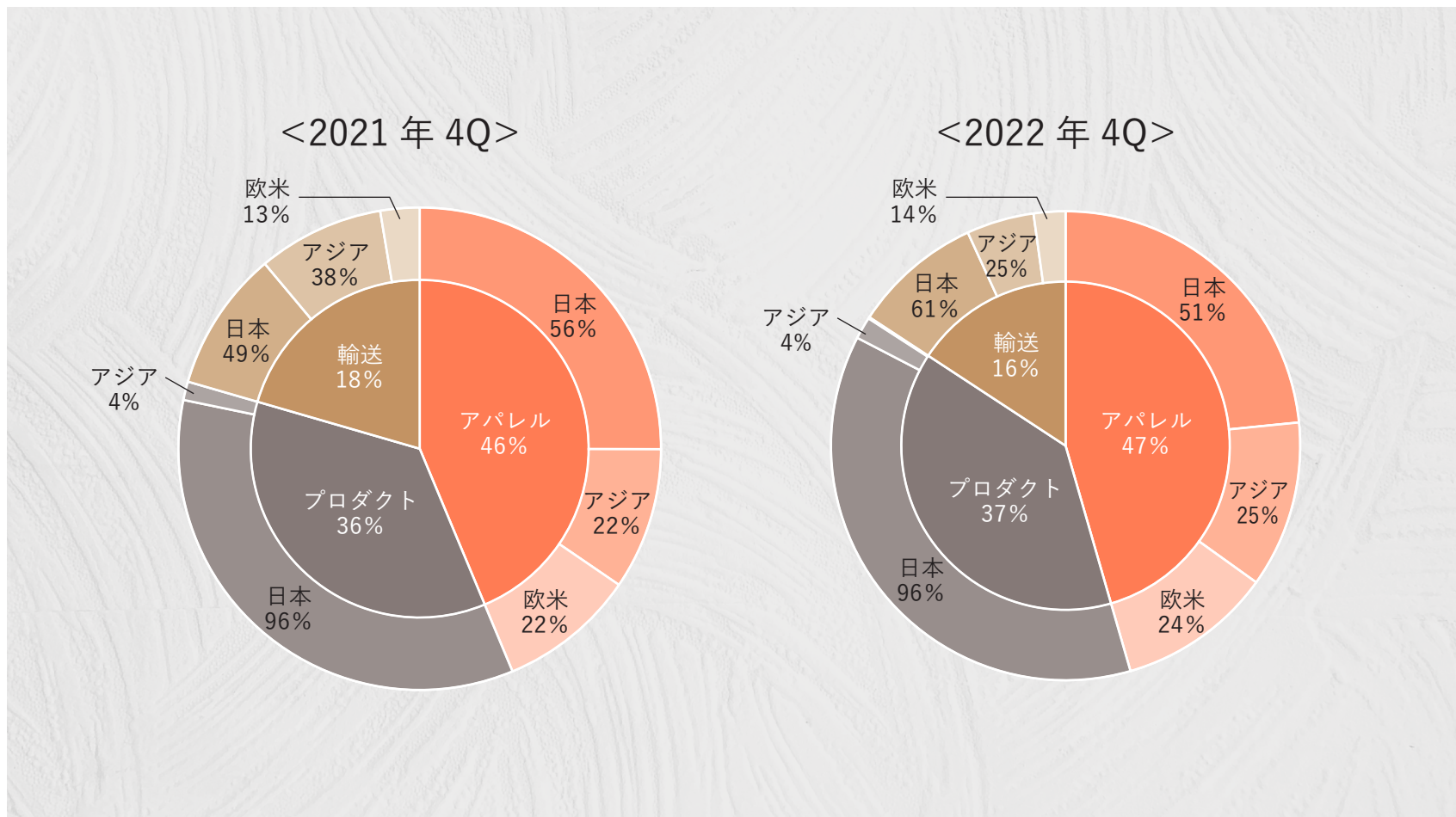
<2021 年 4Q>



<2022 年 4Q>



## 2022年11月期 地域別 × 事業別 売上構成





## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

8

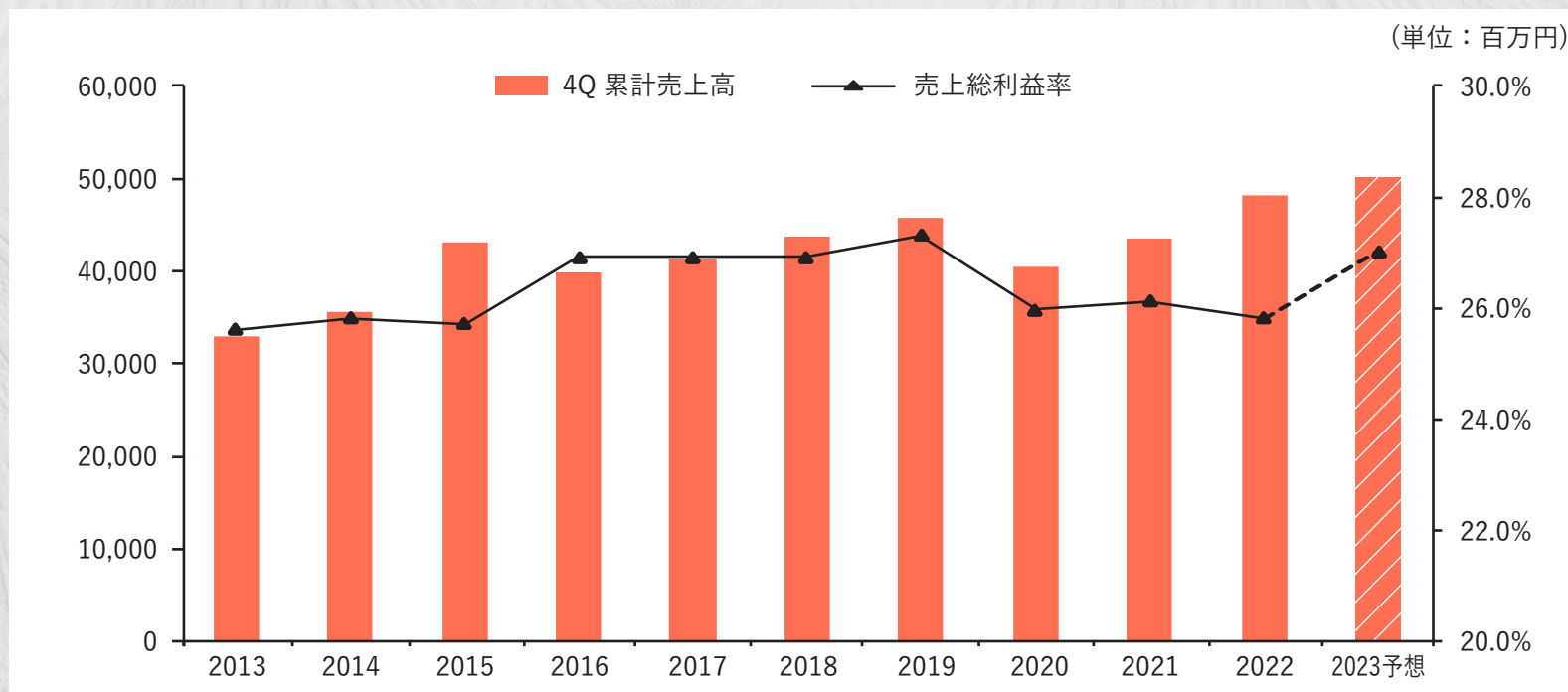
# 2023年11月期通期業績予想

## 2023年11月期 通期業績予想

|        | 2022年11月期<br>実績 | 2023年11月期<br>業績予想 | 増 減    | 前期比  |
|--------|-----------------|-------------------|--------|------|
| 売上高    | 48,478          | 50,000            | +1,522 | 3.1% |
| 営業利益   | 2,116           | 2,300             | +184   | 8.7% |
| 営業利益率  | 4.4%            | 4.6%              |        |      |
| 経常利益   | 2,342           | 2,450             | +108   | 4.6% |
| 経常利益率  | 4.8%            | 4.9%              |        |      |
| 当期純利益  | 1,674           | 1,800             | +126   | 7.5% |
| 当期純利益率 | 3.5%            | 3.6%              |        |      |

## 2023年11月期 売上高・売上総利益率の推移予想

2022年度は円安による輸入コスト、米国を中心とした原材料の調達難によるコストが増加したが、2023年度は改善見込み。



## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

8

# 事業のトピックス

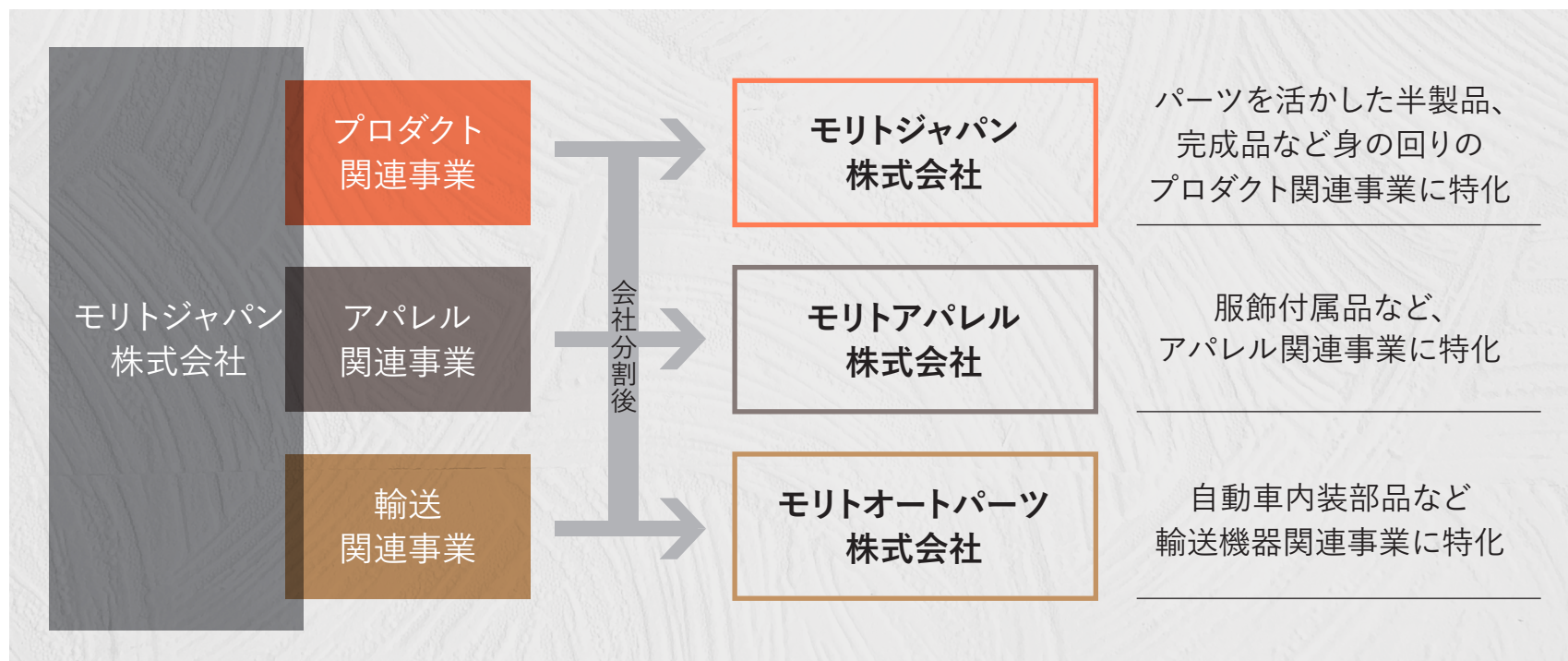


## コーポレートブランドの刷新

(背景)

モリトグループ最大の事業会社であるモリトジャパンの会社分割。

→あらゆる環境の変化に対応、各市場のニーズに沿った会社運営を実施。



## コーポレートブランドの刷新

モリトグループが新たな体制に生まれ変わるタイミングに合わせ、  
タグラインを新設、コーポレートロゴも変更。  
新たなロゴ・タグラインを活用した PR 活動も実施、継続予定。

MORITO

あたりまえに、新しさ。

MORITO

あたりまえに、新しさ。

モリトグループのコンセプトムービーはこちら



千葉ロッテマリーンズのオフィシャルスポンサー  
となり、ZOZO マリンスタジアムに広告を掲出



## 環境への取り組み「Rideeco」

「Rideeco」は、RIDE FOR ECOを意味し、RIDEはモリトグループの思いを表す頭文字。我々だけでなく、様々な業種・業界の方と協力し合うことで、サステナブルな社会の実現を目指した取り組みを実施。グッドデザイン賞授賞式の胸章に環境配慮型の生地が採用されるなど、これまでにない実績も多数。

▶ サステナビリティサイトはこちら

**Relation** 新たな価値の創造に向かって様々な業種、業界と関係性を構築し力を合わせる

**Initiative** 傍観者ではなく、自らがサステナブルな社会に向かって取り組む

**Devote** 短期的な利潤の追求だけではなく、未来の社会のために自らの知恵を捧げる

**Energy** そして根気よく、力を込めて活動する



2022年10月にサステナブルファッションEXPO秋に大規模出展。東京ヴェルディ女子ホッケーチームと共同開発のアイテムなど、Rideeco商品を多数展示。  
※詳細はこちら



## 環境への取り組み 商品実績

従来より実施している廃漁網を活用した資材の採用件数・売上が増加。  
新たに化学繊維を活用できる混抄紙や広島市の千羽鶴を活用した製品が登場。



廃漁網をリサイクルした素材からできたパーツ・生地（オーシャンカレント®）



混抄紙「ASUKAMI®」



コクヨ株式会社のペンケース  
「ネオクリッツ  
<From Fishing Nets Recycling>」



株式会社ルートートのトートバッグ  
「ALLIANCE FOR THE BLUE  
×ROOTOTE」



ダイソー向け「peacepiece®」



## スポーツ・アウトドア関連商品が堅調に推移

モリトグループの商品の機能性、品質、納期、グローバルな企画力などが評価され、国内外の大手スポーツブランドから、付属品や完成品などの受注を獲得。また、北京五輪の影響でスノーボード関連商品が好調。アウトドア関連商品を中心としたブランド「POLeR®」も伸長。



「POLeR®」商品



スノーボード  
関連商品



## メキシコ拠点の成長

2017年に設立したモリトスコーヴィルメキシコを調達・販売拠点とした、アメリカブランドへの販売が拡大。陸上運送により、納期安定・運搬コストカットをメリットとして、需要が増加。

輸送関連事業では自動車内装部品の商品数・受注の増加、アパレル関連事業では、ベビーウェア・カジュアルウェアで新規受注を獲得し、今後も拡大の見通し。





## IR 活動について

WEBを活用した個人投資家向けの動画配信を継続。  
2023年度もSNSを含めた企業PR活動とあわせて実施予定。



5 月 ログミー株式会社  
個人投資家向け IR セミナー



10 月 みんかぶへの  
会社紹介動画掲載



11 月 イベントス株式会社  
スペシャル対談〈前編〉



11 月 イベントス株式会社  
スペシャル対談〈後編〉

## CONTENTS

1

2

3

4

5

6

7

8

# 株主還元策



## 2022年11月期期末配当予想の修正

2022年11月期の連結業績が業績予想を上回ったため、利益配分に関する基本方針の範囲内(※)で、期末配当予想を修正。(2023年1月13日付)

これにより、当期の年間配当金は当初の予想から3円増配の32円、配当性向は51.4%、DOEは2.4%となる予定です。

|           | 第2四半期末<br>(5月末) | 期 末<br>(11月末)      | 合 計                | 増減額                |
|-----------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 2021年11月期 | 円銭<br>9.00      | 円銭<br>17.00        | 円銭<br>26.00        | 円銭<br>-            |
| 2022年11月期 | 円銭<br>13.50     | 円銭<br><b>18.50</b> | 円銭<br><b>32.00</b> | 円銭<br><b>+6.00</b> |

※ 2022年11月期期末配当金予想については、従来の利益配分に関する基本方針に基づき修正をしております。

## 利益配分に関する基本方針

株主に対する利益還元を経営上の重要課題のひとつと位置付け、投資案件および財務状況(純資産等)を勘案の上、下記の方針に基づき、配当額を決定。  
(2023年11月期～)

安定的かつ  
継続配当の実現

業績状況等により  
親会社株主に帰属する  
当期純利益に対する

配当性向は  
50%以上を  
基準※

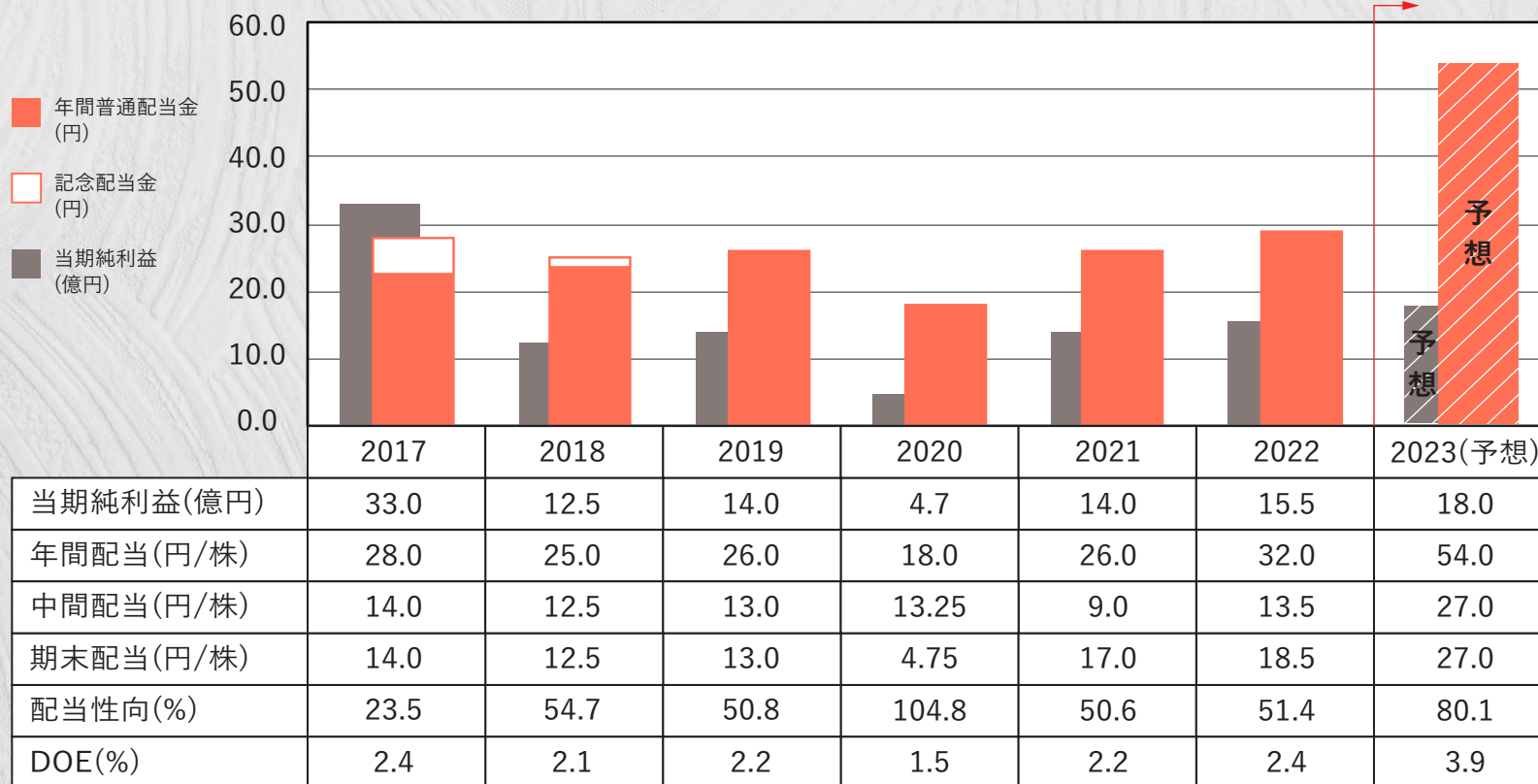
連結自己資本配当率

DOE 目標  
4.0%

※ 特別な損益等の特殊要因により税引き後の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度についてはその影響を考慮し配当額を決定いたします。

## 配当金・配当性向・DOEの推移

2023年度より、利益配分に関する基本方針を変更





# 本資料のお取扱いについて

---

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください

本資料に関するお問い合わせ先

モリト株式会社 社長室

〒541-0054 大阪市中央区南本町 4-2-4

TEL：06-6252-3559 / FAX：06-6252-3483

E-mail：ir@morito.co.jp



# MORITO

あたりまえに、新しさ。